



「明けておめでとうございます。で、また映画の話ですが…」

◎昨年フォーラム那須塩原で「アングリースクワッド」を見てきました。平日、20時からの回で、それほど話題になっていない映画ですから、観客は私を含めて6人でした。私がなぜこんな話題になっていない映画を見に行ったか、というと、この映画の原作が「38 師機動隊」（邦題：元カレは天才詐欺師）という、とんでもなく痛快な韓国ドラマであること、そして監督が「カメラを止めるな」の上田慎一郎だったことです。韓国ドラマは、一話が多い（ほぼ1時間を超える）上に全16話くらいが普通なので、上田監督がこの痛快な原作をどのように2時間にまとめ、どのような味付けをするのかが、私の関心事でした。

「カメラを止めるな」では無名な俳優しか使わなかった上田監督は、今回は内野聖陽、岡田将生、川栄李奈、小澤征悦、真矢ミキ、森川葵、という有名俳優を使い、「カメラを止めるな」公開前の2018年から構想を練った渾身の作品のはずでしたが、私には「……うーん」でした。原作の韓国ドラマでは、マ・ドンソク、ソ・イングク、スヨン（「少女時代」）という魅力的な主演俳優に加え、個性豊かな俳優が脇を固め、物語の展開もハラハラドキドキで伏線の回収も見事でした。ただ、製作費を考えると、「アングリースクワッド」は超有名俳優を使った16話の大作に及ぶわけではなく、最初にこの映画を見ていたら、私の感想も違っていただいかもしれません。どちらも見ていない、という方には「アングリースクワッド」を見てから「元カレは天才詐欺師」を見ていただき、感想を伺いたいものです。さてこの韓国ドラマ「元カレは天才詐欺師」の第一話でのこんなセリフが気になりました。主人公のマ・ドンソクが高校生の娘を学校に迎えに行き、歩いて家に戻る時の娘の言葉です。「一生懸命勉強してるのに何で私は成績が悪いの？私はクラスで下から4番、私の下は全員テコンドー部なんだよ」??テコンドーだと成績が悪いの？と思いましたが、韓国の高校の部活動は日本のそれとは全く違い、テコンドーやフェンシング部、アーチェリー部などに所属している生徒は授業にはほとんど出ずに、その競技の練習ばかりしているらしいのです。また、部に所属していない大多数の生徒は、午後の授業後学校で夕食をとり、そのまま夜9時、10時まで学校で勉強、その後学習塾に行きまた勉強、家に帰るのは深夜12時、なんて普通？らしいです。韓国人の知り合い何人かに「高校時代は楽しかったですか？」と聞いたところ、全員から「監獄のようだった」「二度と経験したくない」などと否定的な言葉が出てきました。ソウルの有名大学（SKY…Seoul〔ソウル〕、Korea〔高麗〕、Yonsei〔延世〕）に入学し、一流企業に入ることが韓国に住む高校生の目標になっているようです。韓国の高校に「文武両道」は存在しません。日本で楽しい高校生活が送れて良かった、日本人で良かった、あなたたちは優しい国に暮らしているんだよ、と今の高校生に伝えたい、そう思うのです。

今回も映画、ドラマについて書きました。韓国の高校生活が分かるドラマに「二十五、二十一」、学力社会や就職状況が垣間見えるドラマに「ミセン」（日本では「HOPE～期待ゼロの新入社員～」題でリメイク）があります。超競争社会の韓国ですが、ノーベル賞受賞者は二人だけです。日本人の受賞者28人と比べようもなく、ゆとりは必要だよな、と思うと同時に、自分を含め、ぼーっとしてる日本人大丈夫か、とも思うのです。